



灰

Aブロック全作品と講評
www.columnland.net

一面灰色の曇った空

遠くから聞こえる雷

ひどく蒸し暑い空気

突然降り始める夕立

すぐ近くに落ちる雷

熱気を失いゆく空気

明るくなっていく空

遠くへ離れてゆく雷

快適な風が吹く空気

——そんな、ある夏の夕方

夏の思い出

「……おじいさんが死んじゃった。」

ある朝、母のこの言葉でぼくは起こされた。寝ぼけた頭でそれを聞いたぼくには、何だかよくわからなかったのだが、今でもはっきりと覚えている。小学二年生だったぼくは両親に連れられて、いつも祖父が寝ていた部屋に入って行った。そこには悲しそうな顔をした祖母と、眠っているように見える祖父の姿があった。祖父は少し前に退院したばかりであったが、今思うとそれは最期を家族と過ごさせてやりたいという両親の選択だったのだろう。しかし幼かったぼくに祖父の死期を教えるはずもなく、ぼくにとっては急なことだった。初めての身内の死を前に、ぼくは実感を持てずにいた。冷たくなった祖父の頬に触れても、悲しみの一つも湧いてこなかった。身近な人の死というものは、多くがすぐにはそれを受け入れられないのかもしれない。だがぼくはそれとも違う、ある種不思議な感情を抱い

ていた。きっと人の死という事実そのものをうまく把握できずにいたのだろう。

それからお通夜や葬式が行われ、祖父は火葬に出されることになった。しばらくして火葬場から出された祖父の身体は、きれいに骨と灰になっていた。泣きながらそれを見つめる親族たちに、お坊さんがお骨を組んで菩薩のあぐらを形どり、きれいにお骨が残っていると慰めていたのを覚えている。灰になった祖父を見たときも、ぼくの心は穏やかだった。祖父と遊んだことを思い出して涙を流したのは、それから数日経った頃だったろうか。しかし数カ月もすれば、祖父と過ごした日々は悲しみの対象ではなく、楽しい思い出になっていた。

その後幾度か身近な人の死を経験していくうちに抱くようになった、「死というのは悲しみの対象ではなく、誰にでも訪れる自然なものである。」という死生観をぼくの中に作り出すきっかけとなった、短くて濃い数日間のおはなし。

日常のこと

朝、目が覚めて、ツヤのある灰色のリングを手にとった。

包丁で割ると灰色の蜜が中心に浮いており、すごくおいしそうだ。

落ちる雨粒が、生き生きとした濃い灰色の葉々を揺らしている。

空が明るいから、すぐにやむだろう。

雲が流れ去り、透き通るような灰色の空が現れた。

濡れた灰色のアスファルトが光線を反射してまぶしい。

ご近所の庭の、シャクヤクのつぼみが開いている。

薄い灰色の彩りが気に入る。

空に虹が出ていた。

自分にとって、「カラフル」であることくらい分かる。

その濃度を無限に変えながら並ぶ、灰色の帯だ。

誰が、虹は七色と決めたのだろう。

もし色が見えたら、七色だろうか。

自白剤

「おい、まだあいつは吐かないのか。」

「ええ。一言もしゃべろうとしません。黙秘のままです。」

「そうか……。しかたない、あれを使うか。」

「もしかして、それはこの前新聞発された自白剤のことですか？」

「そうだ。このままではらちが明かない。物的証拠はないが、この容疑者は限りなくクロに近い灰色だからな。今回のようなケースならいいだろう。実験するにはちょうどいい。お茶にでも入れて持ってい。」

「はい。」

（人づかいが荒いな、警部は。しかし、この容疑者もかわいそうだ。妻に浮気され、しかもその相手を問い詰めても相手を誰かしゃべらず、それでカッとなつて殺しちゃったんだもん……。状況証拠は完全にあいつがクロだと指し示しているのだが……。よし、お茶の用意ができた。警部の分も入れとかないと。あとは犯人の分だけにこの自白剤を入れて……。よしできた。）

「警部、お茶を持ってきました。」

「よし、じゃあそれをあいつの所に持っていけ。今度は俺が尋問するから、俺の分も置いていてくれ。」

「はい。」

「よし。おい、あんた、まあお茶でも飲め。俺も一口……。ん？」

（ふう、これであいづもいい加減白状するだろう。あれ？ 警部の様子が……。あつ、間違えた！ 警部が飲んだほうが自白剤入りのお茶だ！ ああ、どうしよう。あれ？ 警部がなんかしゃべり始めた？）

「……なんでこんなことになっちゃったんだ。俺はほんの遊びのつもりだったんだ。おい、あんた、俺が夏子の浮気相手だ。ったく、俺もついてないな、よりによつてこいつの取り調べとは……。」

「あんた！ あんたが夏子の！ くそ殺すつもりなんかなかったのに……。あいつがかばうようなこと言うからつい手がで……。ううっ。」

（警部が犯人の妻の浮気相手！ しかも犯人が自白した！ しかしこの自白剤は成功したと言っているのだろうか……。）

人々は朝の光とともに川の流れて身体を清める

日照りが続いても枯れることなく流れる川

人が亡くなると、その人を囲み

思い出話に夜通し耽った後

翌朝火葬した灰を川へ流す

それでもふとあたりを見渡せば

灰には目もくれず祈りを捧げている人がいる

人々の日常にも非日常にも深く根付いているその川は

すべてを流し続けながらも

すべてを受け止め

幾年にもわたり灰という死者の魂を導く

ガンジス川

「灰色ってねずみ色ともいうらしいよ」

と目の前の彼女がいったとき、僕はそう、としか答えられなかった。僕はねずみを知ってはいたけど見たことはなかったし、そもそも灰色が何色だかわからなかったのが大きな理由だ。

「灰色って何色なんだい？」

「さあ」

問いかければ肩をすくめて返された。「見たことないから知らないとか」

ある程度予想はついていた言葉だ。僕たちが生まれたとき世界には僕たちをのぞけば僕たちを生んだ人しかいなかったし、機械的な『宇宙船』の外は荒廃した砂漠が広がる中、僕たちが居ることのできる場所は宇宙船内より他はない。そんなところでは、ねずみに限らず僕たち以外の地球の生物を見ることは皆無に近い。

「銀色に近い色らしいけれど」

と彼女が呟いたときにピーという音が部屋に響いた。きっと処理が終わった音だろう。僕と彼女が隣へ続くドアを開けると、部屋の中央に鎮座している大きなトレイに近づいた。砂のようなものに埋まるようにして、白いものが散らばっている。触ったらもうく崩れてしまいそうなこれが骨というものだろうか。僕たちは黙って初めて見る骨と砂を眺めていた。これが一時間前までは母と呼んでいた人と同じものだとは思えない。

「砂じゃないよ」彼女が口を開いた。「灰って呼ばれるものだよ。」

母さんが教えてくれたじゃない」

「じゃあこれが灰色なのか」

そういつて僕たちはもう一度、その白とも黒ともいえない微妙な色を眺めた。母さんは最後まで僕たちにいろんなことを教えてくれる。滲む視界の中、輝くように見える灰に向かって手を合わせた。

母さんが昔教えてくれた通りの方法で。

週刊自分より抜粋

みなさん初めまして。今週から週刊自分のコラムを任されることとなりました石井と申します。以後読んでいただけると幸いです。

さて最近みなさんは空を眺めていますか？私は昔からの趣味というか楽しみにしていることで、よく眺めているのでちよつと魅力を書いてみようかと思いません。

これはよく言われることかも知れませんが空というものは実に豊かな表情を持っているように感じられるのです。例えば一口に晴れと言っても四季だけで違いを感じませんか？似ているような秋と冬でも違いはあります。秋は澄み切った空気にどこまでも広がる透明感のある青空ですが、冬になると空気は薄く張りつめ、その緊張をほぐそうと日差しがさし、柔らかに空気と溶けあう。空というのは細分しても切りのない、まるで女性のような深さを持っているのです。

今日この頃だどう思いますか？私はこの灰色の空。特に東京の曇った表情が好きです。体に貼りつく独特の空気、はつきりとせず夏の明るさを出してはしまふところ・・・いじらしい奴だと思いませんか？それにこの優柔不斷さにここ東京に暮らす人間の不安さが渦巻いているんじゃないか！？という妄想もできてしまいます。すいません。少し興奮してしまいました。しかし、おそらく多くの人が私のように自分の心を今の空に重ねられると思います。是非自分の感覚で空を眺めてあげてください。だって空と心を通わせるなんて素敵だと思いますせんか？

灰色の死体

私は殺すのです

彼らは元々殺されるために生まれてきたモノでしたから

私は殺すのです

時に注射を打ち、時に電気を流して

私は殺すのです

それは必要なことだから

私は殺すのです

灰色の空を見るたびに少し恐ろしく思いながらも

でもこの恐れもいつか消えるのだと

そう願いながら

今日も私は灰色の彼らを殺すのです

灰婆

灰婆という妖怪がいるらしい

人に灰をふりかけて目をそむけさせるそうだ

電車の中で立っているおばあさんがいた

席を替わってあげたかったけれど灰婆が現れた

階段で転んだおじいさんがいた

助けてあげたかったけれど灰婆が現れた

荷物を落とした青年がいた

拾ってあげたかったけれど灰婆が現れた

僕はいつも灰婆に負けてばかりで

そのたびに悲しい気持ちになった

どうして灰婆は僕の邪魔をするのだろう

ただ誰かを助けたいだけなのに

ボールが木に引っ掛かって泣いているこどもがいた

取ってあげようとしたら灰婆が現れた

ふりかけてくる灰に目をそむけそうになったけれど

勇気をだして目をあけていた

不思議と痛くはなかった

それどころか灰をかぶったとたん

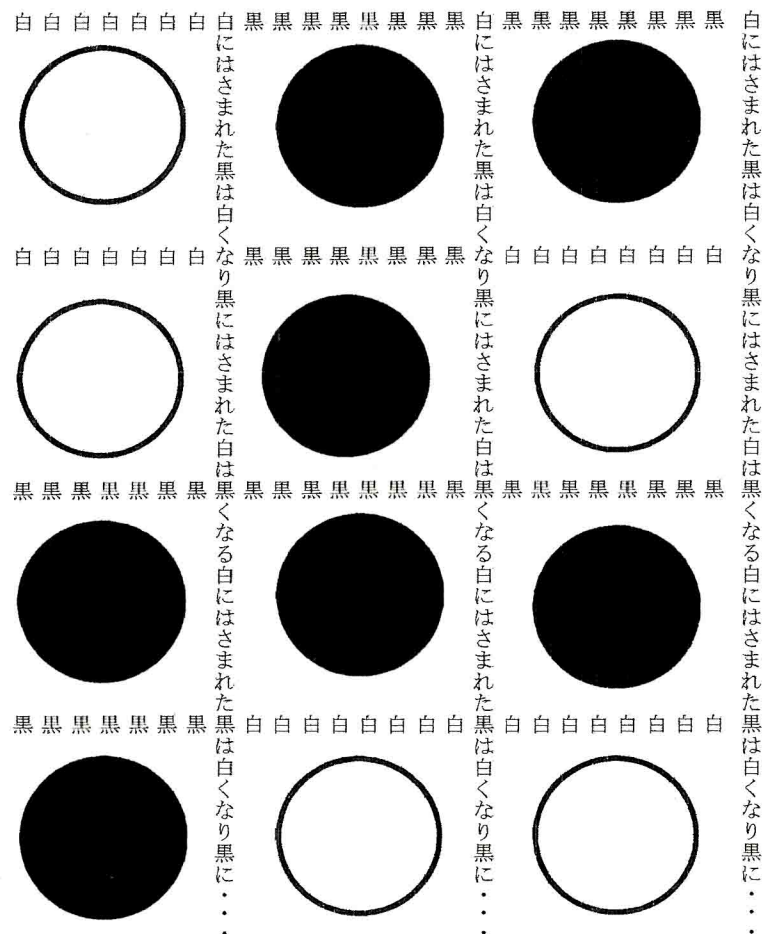
体が自然と動き、僕はこどもにボールをわたしていた

そこにあつたのはこどものあどけない笑顔だった

どうやら誰よりも人を助けたかったのは灰婆だったらしい
みんなの笑顔を守るために

あのボードゲームに対する不満

世の中、白黒つけられることばかりじゃないと思う…



「白黒はつきりつける」と言えば、物事の良し悪しをはつきりさせることや、場合によっては単に何かの決着をつけたりする際に使う言葉であり、「グレーゾーン金利」と言えば合法か違法かのぎりぎりのラインである。

一般的に「灰」「灰色」に対して良いイメージを持っている人は少ないのではないだろうか。確かに、灰は「中途半端」「汚い」というイメージが強い。確かに善と悪は白と黒で表現されることも多く、灰色はうやむやなイメージである。家の本棚の上段を見れば、きつと灰色の埃が薄らと乗っているだろう。灰色は「鼠色」とも呼ばれ、やはり清潔なイメージはない。

しかし、もつと灰のことを高く評価しても良いのではないだろうか。昔から「焼畑農業」という、灰を肥料として農作物を育てる手法があったではないか。キャンプに行けば、灰（消し炭）は着火しやすい素材として使っているではないか。花咲かじいさんは灰を撒いて枯れ木に見事な花を咲かせたではないか。想像上の動物、不死鳥は灰の中から蘇ると言われているではないか。漫画「名探偵コナン」の登場人物、灰原哀は準レギュラーでありながらメインヒロインよりも人気があるではないか。

好きな色を聞かれて「灰色」と答える人は多くはないだろう。しかし、マイナーであるからこそ、火山灰の中に混じっている綺麗な鉱石のように、輝いていてもらいたいものである。

Q. あなたの好きな色は何色ですか

もちろん、答えは十人十色、あなたの思った色を答えて構いません。しかし、たくさんさんの他の色があなたのお気に入りの色を際立たせていることを忘れないでください。

生まれ
生
を
ま
っ
と
う
し
燃え
尽
き
灰
に
な
り
そ
こ
か
ら
輪
廻

人は、まるで不死鳥のような
この輪廻を、いつになったら
抜け出せるのだろう

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	——そんな、 ある夏の夕方	3 pt	9 位	1 sp
		空と雷と空気と。どの連も三点セットでまとめた、とても形の整ったポエム表紙です。 とくに空気の三変化（へんげ）が実感こもって、うんそんな感じだよねと伝わってきました。 特別賞：よくまとまってる賞（見た目がすごいきれい。表紙にふさわしい。） イチオシフレーズ：「——そんな、ある夏の夕方」×2		
A02	夏の思い出	3 pt	9 位	1 sp
		見送られて灰になる。このコンセプトがとても多かった今回ですが、本作品は「悲しみ」でなく「自然」なことというスタンスでまとめたことで、筋の通った主張を残します。このリアリティ、たぶん実体験なのでしょうね。 特に自分自身の死生観の出発点という位置づけが、くさびのように効いて好印象。 特別賞：フツーで賞（ふつうに良かった。）		
A03	日常のこと	16 pt	2 位	0 sp
		日常の彩りをすべてモノトーンに置き換えてみると—— 表現の実験として言葉の力を知ることになり、思考の実験として色覚のない世界を映像的に想像することになり。 とてもユニークな狙いがあざやかに成功していました。この良さをしっかり受けとってシルバー・メダルまで押し上げた読み巧者のフロアもエライ！おめでとう!! イチオシフレーズ：「カラフル」		
A04	自白剤	12 pt	3 位	0 sp
		シンプルな人間関係で、コントのようにすっきりオチ。 なるほどたしかに解決してみれば、自白剤の大手柄ですね、ナットク！ ムダのない展開でおもしろさアピール、みごとブロンズ・メダルでした、おめでとう！		
A05	ガンジス川	5 pt	6 位	0 sp
		映像とともに流れてくるナレーションのような、落ち着いた語りに惹かれます。 説明的になりすぎずに、最小限の情報をひとつひとつていねいにカメラで映し出しながら提供していく。とてもいいバランス感覚でした。 イチオシフレーズ：「すべてを流し続けながらもすべてを受け止め」		
		9 pt	5 位	0 sp

A06	(無題) 宇宙船	SFって設定説明でいっぱいいっぱいになってしまいがちなのですが、これはすばらしい。ちゃんと母さんドラマがラストにあって、しかもいいフレーズで感動を届けてくれます。 今とは違う未来。何が違ってしまったのか。知識の継承はこんなにも危うくなってしまう。ドラマのなかで伝えきって、グレートでした。 イチオシフレーズ：「灰色ってねずみ色ともいうらしいよ。」		
A07	週刊自分より抜粋	2 pt	11 位	0 sp
		ていねいな観察でこまやかな描写。ラストにちょっと興奮のお茶目ぶりも楽しい。 好感度大な率直トークでした。 エッセイ書くなら、こんなふうに。		
A08	灰色の死体	1 pt	12 位	0 sp
		実験マウス、でしょうか。 「殺すのです」のリフレインが、ひたひたと沁みてきて、自らの内なる恐れと戦いつつ殺し続ける業（ごう）のような凄みが伝わってきました。 その刺さるようなインパクトが読み手に深い印象を残して、今週のイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！ イチオシフレーズ：「私は殺すのです」×3		
A09	灰婆	20 pt	1 位	1 sp
		妖怪さんの真の意図。助けてくれるつもりだったんかい！ そんなスレ違いが、ユーモラスな仕上がりになりました。 やりましたね、ついに待望の首位!! 涙で霞む壇上…… 作者さんのあと2回に期待です。おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：深いで賞（深いから） イチオシフレーズ：「不思議と痛くはなかった」		
A10	あのボードゲームに対する不満	5 pt	6 位	8 sp
		オセロ。負けそうだから八つ当たり？なんて盤面見て考えたり。 いろいろ想像がふくらむ楽しい作りです。特別賞をさらいまくった上に、イチオシフレーズ大賞までゲットしました。おめでとう!! 特別賞：デザイン賞（デザインが良かった。） 白と黒で賞（オセロでこの状況はあり？（笑）） レイアウト賞（オセロの目が灰色もいいかも。） 白黒つけま賞（日本人は灰色な人が多すぎです。） レイアウト賞（斬新なレイアウトですね）ズレを直しま賞（オセロズレとる。） カドを取られちゃったで賞（黒にカドを取られちゃったから）ギャップ萌え賞（お察してください） イチオシフレーズ：「世の中、白黒つけられることばかりじゃないと思う…」×3		
	(無題) 好きな	10 pt	4 位	0 sp
		焼畑に花咲じいさんにコナン君。次から次へと繰り出す灰色礼賛トークが、論理性はアヤしいけれど、なんだか説得的でした。		

A11	色は	ぎっしりになりがちな正統派論説に、ちょっと変化を加えた技も◎。 イチオシフレーズ：「もちろん～ください」「灰原哀」
A12	輪廻	4 pt8 位4 sp きれいなレイアウトの裏表紙です。 ぐるぐる回るだけでなく、そこから抜け出したいんだ！というささやかなベクトルを提示したところが新視点でナイス。特別賞をたくさんいただきました。 特別賞：レイアウト賞（レイアウトがよい）レイアウト賞（レイアウト及び中二病）輪廻転賞（思いつき。）レイアウト賞（素晴らしいレイアウトです！） イチオシフレーズ：「不死鳥（フェニックス）」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	灰	2 pt10 位0 sp 灰になり、からになる。 シンプルなつくりで喪失感がすうっと伝わってくる今週の表紙でした。 もう少し亡き人の姿について具体的な描写があると、より読者を引き込めたのでは。		
B02	灰色人種	4 pt7 位0 sp ハイコンテキスト、そうですか。 ダジャレのような深いような。 エントロピーから堂々として、論理的と見せかけつつ飛躍しまくり、読み手を煙に巻く愉快的な科学トークでした。 よい子は真似しないように!? イチオシフレーズ：「灰コンテキスト」×2		
B03	コーチ、ごめんなさい。	4 pt7 位0 sp むむ、これは実話のお詫び状か？と思わせる細部のリアリティでした。 しみじみコーチ→時代は石焼き→外国産 きれいな構成のナイス三段オチ！ イチオシフレーズ：「おいしそうな（上手い）外国産の（外人選手）焼き芋を買う（ヘッドハンティング）。」×2		
B04	シンデレラ 漢詩.VER	0 pt12 位11 sp やらかすぞ、と宣言しておられた作者さん、あざやかな仕掛けです。 ときどきぽこぼこ入る知らない字を「麗」かな「開」かな、などと想像して読むのも楽しい。「幸福一生円満結」。おしあわせに。 結果もスゴかったですね。ゼロポイント+特別賞の嵐、なんと11個も。ある意味おいしい今週いちばんの話題作でした。おつかれ～！ 特別賞：解説不可賞（白文は読めません）分からないで賞（努力を感じた。読めない。一番特徴的だった。）灰姑娘で賞（漢詩なのにシンデレラだから。）返り点欲しかったで賞（返り点欲しかった）韻を踏みま賞（韻を踏んで欲しかった）広東賞（読む気が起きないから）乙賞（がんばったので、お疲れということで）李賞（李君→		

		ご本人所属班から) 韻を踏んでないで賞(頑張ったから。) 音読してほしいで賞(よめないから)? 是中国人?(普通に凄い)
B05	ある紙芝居でのお話	15 pt2 位0 sp シンデレラ 自立ヴァージョン。 なるほど紙芝居屋さんになったのですか。その決意を促した花屋さんのエピソードがよく効いています。 でも、捨てられちゃった王子さま、かわいそうだなあ。 前座の李君を蹴散らして、もとい、李君に前座で助けてもらってのシルバー・メダルでした、おめでとう!!
B06	灰の愚痴	2 pt10 位0 sp 愚痴になっちゃったなあ、どよーん、という灰の気分を「はいはい」と軽く受けたラストになごみました。そんな変化の付け方がうまいです。 イチオシフレーズ:「はいはいって思うだろうけど」×3
B07	# 8 0 8 0 8 0	3 pt9 位1 sp たしかにモノクロの写真や映像の主役は黒や白より、むしろ灰色。 その明度だけで、いろんな意味を読みとろうとしていたのです。変化球アングルでびしっとポイントを突いていただきました。 特別賞:すごくアバウト賞(決め方もアバウトでした。)
B08	Ash and snow	14 pt3 位0 sp 最後に落ちていった白は、彼か、はたまた彼女もろともか。 どちらとも取れそうなラストシーンに至るまで、選び抜かれたフレーズで組み立てられるモノトーンの、けれど激しい光景に釘付けでした。ブラボー、ブロンズ・メダル!
B09	閃光花火	9 pt5 位0 sp 線香→閃光。ちょっとした言い換え。それだけで儚いちよろちよ花火が、壮麗なる尺玉花火へと大変身。 ことばマジックですね。どーんとあざやかでした。
B10	葛藤	5 pt6 位0 sp 日常の小さな苛立ち。手のひらサイズという表現がいいなあ。 灰色の客観俺にぶつけることで解消という展開が、コミカルでナイス。自分自分とコッチコチに固まるのでなく、自分にちょっとツッコンでみる。なかなかに応用範囲の広そうな解決法です。 おなかのすく時間帯にじょうずに食欲も誘って、今週のイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう! イチオシフレーズ:「てか、てりやきのマヨネーズ抜きとか・・・笑」×4 「チーズ抜きチーズバーガー」
B11	5 の輝き	10 pt4 位0 sp なつかしの高校時代。放課後の物思い。リアルに伝わってきます。 完全燃焼じゃなくたって、いいじゃない! の開き直りから、視線の先にマッチ箱、という心の動きがとても自然に描き出されて、読者も共感を寄せやすい展開でした。 イチオシフレーズ:「完全燃焼人」「自分のペースで自分の時間 自分の激しさで燃えりゃあいいじゃないか」「5 の輝き」
		22 pt1 位3 sp

B12

PHOENIX

これはもうグラフィック・アートの世界ですね。
フレーズの意味と、そのカタチがびたりと一致しています。あざやかな技巧で魅了する今週の裏表紙でした。
おめでとう、不死鳥の輝きのゴールド・メダル!!
特別賞：レイアウト賞（レイアウト頑張ってる!） 不死
賞（レイアウトがすごいし、作り方がわからないか
ら。） 作者は燃え尽きた…真っ白にな!!賞（レイアウト
努力賞 作者乙!）